

生きている白山に学ぶ水と緑と防災

# SABO 白山砂防通信



SABO は  
世界の共通語

2002 新春号

VOL. 1

## SABO 白山砂防科学館入館者1万5000人突破！

2001年6月16日にオープンして以来たくさんの方に来館していただき、2002年1月28日現在で入館者数15,208人となっています。また1万人を突破した日は開館98日目の2001年10月13日でした。



1万人目の入館者金沢市の外山さんご一家には、瀧野館長より記念品を贈呈しました。

「生きている白山に学ぶ水と緑と防災」をテーマに、白山や土砂災害、砂防について広く一般の方々の理解を深めるとともに、防災情報拠点として建設された本館ですが、夏休み中などは小さいお子さんからお年寄りの方まで幅広い層の方々にご来館いただき、これまであまり知られていなかった白山で行われているさまざまな砂防事業について多少なりとも知っていただけたのではないかと思います。

これからもたくさんの方に入館したいだけのように、展示物や資料の充実をはかり、イベントの開催や現場見学など検討していきます。今後ともよろしく願いいたします。



## 「白山砂防通信」創刊にあたって



白山砂防科学館 館長  
瀧野 勲

明けまして、おめでとうございます。新春を寿ぎ、ご挨拶申し上げます。当館、開館以来、皆々様のお陰を持ちまして、昨年末で開館日数165日、14,300余名、1日平均90名弱と多くのご入館者をお迎えして、館のご案内をすることができました。ここに、館を運営する一人として心からご来館の御礼を申し上げます。

今般、開館当初より懸案となっておりました、霊峰白山を源流とする手取川上流部（本川・牛首川と、支流・尾添川）において取り組まれている白山の砂防事業を中心とした広報と、当館の展示についてのご案内として、「白山砂防通信」を創刊いたしました。未熟な内容ではございますが、ご一読いただき、「生涯学習」や「総合的学習の時間」などの一資料としてご利用いただき、また、当館へのご来館のきっかけとなれば、幸いに存じます。

## 白山砂防科学館・展示紹介 .....

白山砂防科学館は、白山の自然や過去の災害、そしてその災害から地域を守っている砂防事業などを楽しく学べる施設です。このコーナーでは展示のひとつをくわしく紹介していきます。

### 白山生い立ち解析スコープ



白山砂防科学館の、ちょうど白山の見える窓に向かって大きなスコープが設置されています。これが白山生い立ち解析スコープです。

実際の白山の映像から、コンピュータグラフィックの白山へ。ジョイスティックとボタンを操作して、白山周辺の地形を観察しましょう。

ところどころに光る雲には、白山に関するさまざまな情報が隠されています。照準を合わせて決定ボタンを押し、白山の生い立ちや地質、気象などについて学習することができます。



光る雲は全部で6つ。  
全部チェックしたら  
白山通になれるぞ！





# 白山・手取川と生きる

この欄では「白山」「手取川」「白山砂防」について、順次紹介していきます。

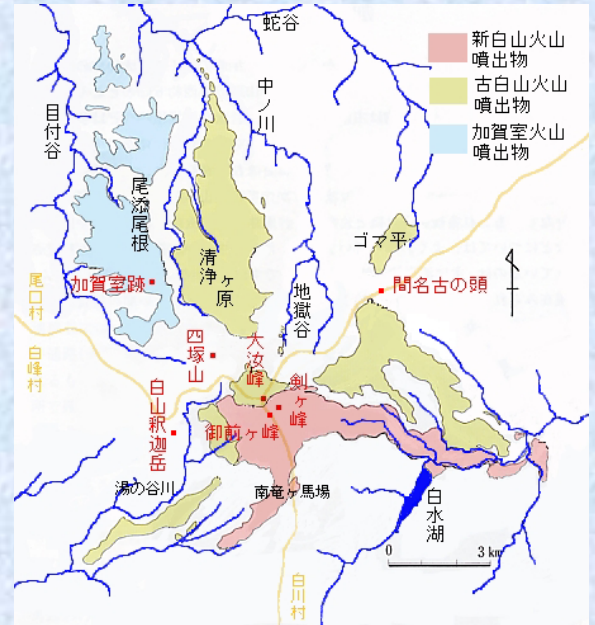
## ……白山の生い立ち（1）……

過去に噴火または噴気の記録があり、今後噴火の可能性のある火山を**活火山**といいます。世界には850の活火山がありますが、600以上が環太平洋地域に集まっています。さらに、環太平洋の北西に位置する日本列島には、世界の活火山の1割近い、86の火山が分布しています。

日本列島には、周辺のプレート（地球表面を覆う、厚さ約100kmの岩石の板）の沈み込みによってできた火山がたくさん存在しています。白山もその1つです。白山山系で歴史時代の活動記録があるのは白山だけですが、白山山系には白山以外にもたくさんの火山があります。（大日山、経ヶ岳、丸山、願教寺山、毘沙門岳、戸室山など）

約30～40万年前、「加賀室火山」が誕生します。長い間の浸食によって当時の火山体はほとんど失われてしまっていますが、尾添尾根から西の目付谷にかけての比較的なだらかな斜面やハライ谷と目付谷に挟まれた稜線に残るわずかな溶岩流の痕跡によって、現在の白山山頂から北西約6kmの尾添尾根あたり（現在の「加賀室跡」）に活動の中心があったのではないかと考えられています。

約10～14万年前になると、「古白山火山」が誕生します。現在の尾添川上流部・地獄谷付近が活動の中心と推定され、当時の溶岩流が厚さ50～100メートルも積み重なってできたのが、四塚山北方の清浄ヶ原です。地獄谷には、かつてのマグマの通路（火道）の一部と考えられる「岩脈」として数箇所を確認されています。標高は現在約1,800mですが、古白山火山誕生当時は優に3,000mを越えていたと考えられています。このあたりは現在、北に開いた馬蹄形の尾根が発達しています。これは、古白山火山の山頂部が大崩壊を起こして形成されたのではないかと考えられています。



参考「日本の活火山と砂防」砂防広報センター  
「白山の自然誌 12 白山火山」石川県白山自然保護センター

ハカセと

カズくんの



## SABO 質問箱



### 質問・1 砂防ってなあに？

ハカセ、ボク「砂防」ってあんまり聞いたことないんだけど、いったいどういう意味なの？えん堤とかのことなのかなあ？

うむ。「砂防」とは**土砂の崩壊や流出を防止すること**をいうのじゃ。日本は高い山々が海の近くまで迫っておるので川の流れが急で、昔から梅雨や台風の大雨で水の勢が増すと土石流や山崩れ、地すべりなど、さまざまな災害にみまわれてきたのじゃ。

そういった災害から人々の生活を守るために砂防事業というのは始められたのじゃよ。

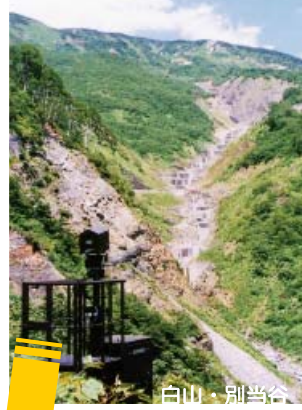
カズくんのいった砂防えん堤は、谷の浸食を防いだり、山崩れを防いだり、土石流災害を防いだり、あるいは下流へ流れる土砂の量を調節したりと、いろいろな機能を持っておる。そして大雨の時などには土砂災害からみんなもくらしを守っているのじゃ。

ボク生まれてから1度も洪水や土石流に遭ったことないけど、それは砂防えん堤のおかげでもあったのか。砂防って重要なんだね。

砂防事業は砂防えん堤のほかにもいろいろあるのじゃがの。「砂防」とは日本で生まれた言葉で、日本の先進砂防技術は世界中で認められているのじゃ。

そうか、だから英語にしても「SABO」なのか！

# 白山砂防出張所・業務紹介.....



白山砂防科学館の2階へ白峰村市ノ瀬より移転してきました。

手取川ダムより上流の牛首川流域の直轄砂防工事ならびに直轄地すべり対策工事の施工監督を実施しています。

上流域より光ファイバーケーブルで伝送される監視カメラ画像や地すべり変位量、気象情報を監視し、工事の安全管理とともに土石流や地すべりの監視を行っています。

光ケーブルで伝送された砂防工事の現場映像や、地すべりのデータを特大のモニターで監視。災害の発生もいち早くとらえます。

## 科学館アンケートより

★ 白山の自然の厳しい様子、生活、植物など、知らなかったことがよく解り、大変参考になりました。

(金沢市、50代の女性)

★ このあたりがこういう災害にみまわれた歴史があるのをはじめて知り、よい勉強になりました。

(金沢市、20代の女性)

科学館の砂防劇場では、昭和9年の手取川大洪水の映画上映も行っております。上映時間外も対応いたしますので、お気軽にお申し付けください。

★ 私は聴障害者です。音声ナレーションや、説明は文字表記にして目で見えて解るようにするなど、バリアフリー配慮がほしいですね。

(長野県、50代の女性)

貴重なご意見ありがとうございます。科学館では新しい映像作品の導入など、リニューアルを常に進めていますので、参考にさせていただきます。



## 編集後記

今後、「白山砂防通信」の発刊は、年3回(新春号・初夏号・秋号)を予定しております。

創刊の「新春号」は拙い内容ではございますが、ご高覧の上、皆様からのご意見を頂戴し、より充実したものになるよう編集に努めたいと存じます。ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

編集・発行

**白山砂防科学館**

★ 入館無料 ★

920-2501

石川県石川郡白峰村字白峰ツ 40-1

TEL 07619-8-2990 FAX 07619-8-2991

e-mail hakusan-j@po3.nsknet.or.jp

毎週木曜日休館(木曜日祭日の場合は翌日休館)

勝山市から車で約30分  
金沢市から車で約1時間15分

**白山砂防科学館**